【学位論文審査の要旨】

本論文は、作業療法の視点からクライアントの住環境整備を捉え、専門性に基づく住環境整備のための記録用紙開発に取り組んだ研究をまとめたものである。

これまで住環境整備に関する研究は建築計画学領域の主導により行われてきた。また、作業療法領域における関連研究は今日まで実施後の追跡調査、内容分析の事例報告等に終始してきたと言わざるをえない。これに対して、本論文は作業療法を基盤に、またその専門性を遺憾なく発揮して住環境整備に取り組んだ点で新規性を認めることができる。

申請者による住環境整備に関する一連の研究は、一貫して回復期リハビリテーション病棟のクライアントの退院指導における、住環境整備への作業療法士の関わり方及び他職種との協働を図るうえで担う役割を明らかにすると共に、作業療法士に求められる情報とそれを他職種に提供し共有する手段の開発を主題として、意欲的に進められてきた。本論文は申請者の修士研究に始まる一連の研究成果をまとめた集大成といえる。

申請者は住環境整備に関する専門職間の情報共有手段として記録用紙の開発を行った。現状で用いられる記録用紙やこれに類する記入用紙の多くは建築計画学領域で作成された用紙の転用であり活用性は低い。作業療法の専門性に基づき妥当性が担保された共通フォーマットの開発は、その有用性を高く評価することができる。

研究方法は、３段階に分けられている。第１段階では記録用紙の記入項目と試作版の作成、第２段階では試作版に記載する用語の検討と修正版の試作、第３段階では臨床での試作版の試用による改善点の把握、さらに完成版の作成である。これらを段階的かつ計画的に、アンケート調査とグループインタビューを組み合わせて実施し、記載項目や記入方法の妥当性の検討を重ねている。これは研究に対する真摯な姿勢も示すものと考える。研究への慎重な取り組みは論文数にも反映されており、本論文及び副論文の他に３本の原著論文にまとめられている。関連学会での発表件数も多い。

課題としては、今後も開発した記録用紙の試用と有効性の検証を重ね、さらに汎用性を高める必要性が残されている点が挙げられる。汎用版としては電子版の需要が多いと予想されその開発を急ぐ必要がある。また実用化に向けた普及方法の積極的な発案を求めたい。なお、国際学会での発表が未だない点は早急に対応を図るべきである。

最終試験の質疑応答では、質問に対して明確な回答を行い関連領域の知識を広く有することが認められた。今後の課題についての指摘が行われたが、真摯に受け止め、指摘された課題に取り組む意欲と今後も研究を推進する熱意が認められた。

以上より、本研究が博士論文に値すること、申請者が博士の学位（作業療法学）に相当することを認める。